

令和7年度 後期の学習状況について

後期の学習状況について下記のとおり報告します。

記

1. 学習状況

(1) カラーテスト結果 (10月から3月まで)

以下の結果を受けて、課題の多い学年については、学習方法を改善したり、学習補充時間を活用した個に応じた指導の充実を図ったりする。

表1 個人内平均値のステップごとの人数の割合 (単位: %)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ステップ5(+10以上)	18	20	21	33	43	49
ステップ4(+5から+9)	28	50	25	25	27	23
ステップ3(0から+4)	26	34	21	13	16	14
ステップ2(-5から-1)	12	16	11	19	5	7
ステップ1(-6以下)	16	9	21	9	10	7

※ 対象教科を1,2年:国算, 3,4年:国社算理, 5,6年:国社算理英とし、実施したすべてのカラーテストについて、個人の結果と全国平均との差の平均値を個人別に求めた。個人内平均値の結果を5つのステップに分け、人数の割合を表にした。

(参考)

表2 R7.4-10 前期の個人内平均値のステップごとの人数の割合 (単位: %)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ステップ5(+10以上)	9	4	11	37	27	50
ステップ4(+5から+9)	44	28	34	32	32	25
ステップ3(0から+4)	25	29	17	26	17	9
ステップ2(-5から-1)	11	14	21	6	8	11
ステップ1(-6以下)	11	25	17	11	16	5

(2) 令和7年度 総合質問紙調査「iCheck (1年から6年)」結果 (12月実施)

後期は1年生も対象だった。前期と比べ、【友だちのささえ:あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいますか。】よりも【家族のささえ:家の人、あなたの気持ちを分かってくれていますか。】の方が肯定的な回答が多かった。

また、【発信力:あなたは、学校生活の中で発言をするとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言していますか。】よりも【生活習慣:学校の授業以外で、週に何日くらい運動していますか。】の方が肯定的な回答が少なかった。

以下の結果を受けて、学級の規範意識を高めること、子供の発信力を高めることに引き続き取り組む。

表3 調査結果の平均値からみる本校の子供の様子

カテゴリー	項目
-------	----

肯定的な 回答が多 い項目	【生活習慣】	朝食は毎日食べていますか。
	【充実感と向上心】	勉強やスポーツ、習いごと、しゅみなどで、今がんばっていることがありますか。
	【家族のささえ】	家の人は、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、認めてくれますか。
	【家族のささえ】	あなたにとって、家は心のやすらぐ場所だと思いますか。
	【家族のささえ】	家の人は、あなたの気持ちを分かってくれていますか。
肯定的な 回答が少 ない項目	【学習意欲】	好きな教科や授業がありますか。
	【学級の規範意識】	クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。
	【発信力】	あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするときに、質問をしていますか。
	【生活習慣】	平日（月～金）は、何時ごろ寝ますか。
	【生活習慣】	学校の授業以外で、週に何日くらい運動していますか。

2. 学習状況改善の視点

項番1の結果を受けて、以下の項目について指導することで、後期の学習状況の改善を図る。

表4 本校の学習指導における16の視点

No	項目
1	学習内容について、子供が自分の言葉で説明できるように指導する。
2	学習している内容は、簡単すぎず、難しすぎず、ちょうどいいものを設定する。
3	学習した内容を覚えているか、自分で自分にテストをするように指導する。
4	先生や友達から、できている点やできていない点について、アドバイスをもらうように指導する。
5	同じ教科の学習ばかりするのではなく、交互に学習するように指導する。
6	聞く・読む・見るなど、色々な方法で覚えるように指導する。
7	楽しみながら学習できるように工夫する。
8	学習した内容どうしの関係を、図や表にまとめて覚えるように指導する。
9	新しく学習する内容は、前に学習した内容とのつながりを考えるように指導する。
10	学習するとき、分かりやすい内容から理解し、それから難しい内容を理解するように指導する。
11	学習するとき、自分なりに例を考えるように指導する。
12	学習するとき、「そもそも」や「なぜ」について考えるように指導する。
13	学習内容の流れや全体像をふまえて、学習内容を覚えるように指導する。
14	短い時間で学習しようとせず、長い時間をかけて、学習した内容どうしを関係づけて覚えるように指導する。
15	学習した内容が、その教科の学習場面以外でも活用できるか考えるように指導する。
16	かたよった考え方をしていないか、自分の考えに意識を向けるように指導する。

以 上